屋藤左衞門、奈良屋市右衞門、喜多村彥右衞門、御代官所五名常光院領と見へたり、○略中昔の廣狹は詳ならず、今の地形の大樣は、東北の方小石川に境ひ、南は牛込に續き、西は關口及護國寺領音羽町櫻木町等に限れり、されど武家屋敷の接界に至ては、半は小石川の地にて、半小日向に屬する類も少なからず、

關口

〔御府內備考四十八關口〕總說

關口村は、小石川、小日向、牛込等にとなれり、地名の起りを詳にせず、此所より西の方に行ば、宿坂といへるあり、其處はむかし鎌倉街道にて、宿坂の關といひて、關の有しなれば、是等によりて斯唱るにや、何れ古きよりの名なるべし、○略中今も在町相半し、その內江戶に屬する廣狹の大樣、東は小日向及護國寺領櫻木町に續き、西は高田四ッ家町に接し、南は大抵上水に限りたれど、水道町は上水の南に在り、北は小石川飛地雜司ヶ谷等に境す、

高田

〔新編江戶志九〕高田

或說に、此むかし越後高田領主の館在りしゆへに、高田の號ありといふは誤りなり、南向茶話にも、北條分限帳を引て、高田葛谷橫山土志比留方は、戶塚の內にあり、然れば天文年中より、高田の號ある事は明らかなり、

本鄕

〔南向茶話〕問曰、本鄕舊名に候哉、但湯島の本鄕にて候哉、○略中

答曰、御尋の通、本鄕の名目、北條分限帳にも載之、又治亂記にも出候へ共、湯島は風土記に載之候へば、定て湯島の本鄕にて有之べく候、其所入込分ちがたし、

〔御府內備考三十二本鄕〕本鄕は古しへ湯島の內にして、その本鄕なれば、湯島本鄕と稱すべきを、上略して本鄕とのみ唱へしより、後世湯島と本鄕とはおのづから別の地名と成りしなるべし、○略中

天正十九年、駒込吉祥寺へ御寄附の文書に、寄進武藏豐島郡本鄕之內五十石之事、如先規令寄附